



No. 99
2025年
2月16日

日本バプテスト同盟
内海部会・瀬戸内海伝道団
委員長：大谷孝志
722-0073 広島県尾道市向島町
16058-22
向島キリスト教会内

巻頭メッセージ

イザヤ書11章1～5節

「平和を造る者は幸いです」

向島キリスト教会 牧師 大谷孝志

私が生まれたのは1946年、第二次世界大戦後でした。小学生の頃、社会の授業の中で、先生が「戦争と武力の行使を永久に放棄し、戦力を保持せず、国の交戦権を認めない」とした憲法9条を読み上げて、日本はもう戦争をしない国になりましたと誇らしげに言っていたのを思い出します。

イザヤ11章1節に「**エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ**」とあります。この若枝は、私達の主イエスを指しています。イザヤはダビデの根株と言わずに、エッサイの根株と言います。これは、ダビデが欲望に負け罪を犯し(IIサムエル11章)、更に戦争で多くの人々を殺し、ソロモンも神に背き、異教の神々を伏し拝んだからだ(I列王記11章)と思われれます。イザヤは、平凡な羊飼いのエッサイの名を記すことで、将来来るメシア、神が遣わす救い主が、平和で、安心できる世界を到来させる方であり、「平和の王」であることを表そうとしたと思われれます。彼は「**この方の上には、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる知識の霊である**」と言います。この方が救い主イエスであり、この世が平和になる為に必要な知恵と力を備えています。

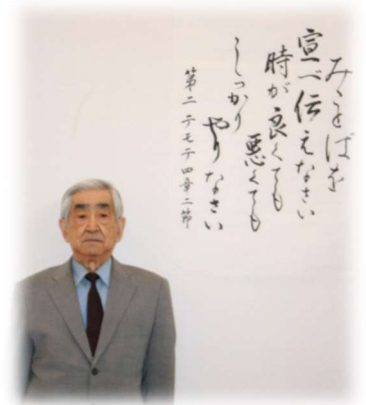
誰もが平和は大切、実現が必要と考えている筈なのに、平和でない状況の中で、多くの人が苦しみ、死んでいます。それは、人の命が大切なのは分かっていますが、他人の命が自分の命と同じくらい大切と考えられ

ない弱さを人間は持つからです。

神は「**神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造され**」ました。しかしその

二人は罪を犯し、神は彼らをエデンの園から追い出しました。それ以後、人は神から離れ、御心が分からなくなり、人は、神より自分の事の方を大事にするようになりました。人は神のかたちとして創造されたので、皆と平和に過ごしたいと願い、相手を安心して信じたい、心豊かに過ごしたいとの思いを持つのです。平和にはほど遠い生活をしていても、主イエスを心から信じ従うなら、平和が実現する希望を持てるのです。

このキリストとして来た主は山上の説教で「**平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれる**」(マタイ5:9)と言いました。主は、私達も神の子どもと呼ばれ、平和をつくる幸いな者になれると言います。神にしっかりと心に向け、御心を知る者となりましょう。心が神から離れ、自分さえ良ければ良いとの考えに縛られていたと気付きましょう。相手を自分と同じように見るのは難しいです。でも出来ると私達が生きる世界が平和になります。主は私達が求めれば、ご自身の霊を私達に与えます。世界に平和を実現するように働き、神の子どもと呼ばれる者になりましょう。



内海部会行事報告

定期総会(2024/4/29)

2024年4月29日に向島キリスト教会にて内海部会の定期総会が行われ、代員10名、委任5名、陪席3名で昨年度の活動の振り返りと新年度の計画について話し合いました。

主題聖句は、昨年度から継続とし、「**御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くて悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。**(IIテモテ4:2)」としました。

「海のコンサート」を計画することや、信徒研修会

を松田牧師(利府キリスト教会)をお招きして実施することなどが決められました。(向島 綿谷 剛)



女性会報告

女性会長 樫原直美

昨年度から大きな話題になっていたのは、内海女性会の共同運営についてでした。所属しているのは現在4教会ですが、その内運営を担えるのは3教会、しかも一教会は単独運営が無理なので、今後どうしようかという話になりました。ひとまず広島は、なんとか単独運営ができそうなので任期3年でやることになりました。できる

範囲での活動を目指し、やり方も実態に合ったものにしていくつもりです。全国女性会の会議でも今後の運営に不安があると聞き、どこでも同じ問題を抱えているようです。とにかくできる者ができることをやるしかない状況です。コロナ禍の後だし、年に一回でもリアルに会うチャンスを設定することが今の目標です。十月の小豆島問安は無事に行うことができました。内海部会より交通費半額を補助していただき感謝です。

リアルに会えば、語り合う中で学ぶべきことや共感することが本当にたくさんあります。それらを心にとめて、大切にしていくのが女性会の務めなのかもしれません。

生きていくのは、いつも誰にとっても困難です。だけこの現実の中で少しでも希望を語れるようになりたい。希望とは、みなさんがくれた言葉の中のひとつかもしれません。



教師会報告

教師会幹事 中川純良

2024年の教師会は、関西部会との合同を含め3回開催することができました。関西部会との合同教師会は、11月25日に猪名川研修センターで行われましたが、合同教師会と名ばかりで、実際は関西部会の教師会に、内海部会から参加させていただく形を取らせていただきました。

3月の教師会は、部会委員会の直後に行われましたので、3名の委員教師が集まる中、中川はZOOMで参加させていただきました。また、この回から教師会でメッセージをすることを始めることになり、最初に

中川が担当させていただきました。使徒言行録8章26～40節から「今、語られる神の言葉」と題してお話しさせていただきました。また、この時に教師会会計をクップ先生から石塚先生に交代することが決まりました。

6月の教師会では、メッセージをクップ先生にご担当いただき、第一コリント15章58節から「苦労は決して無駄にならない」についてお話しくださしました。また、この回では全員がZOOMでの参加となり、メッセージと同時にZOOMの差配をしてくださったクップ先生に感謝いたします。

なお、次回教師会は1月19日に予定しています(来年の福音丸新報で報告させていただきます)。

講壇交換(2024/6/16)

内海部会では年に一度講壇交換を行っています。2024年は6月16日に行われました。

【小豆島バプテスト教会】

中川純良(瀬戸田・安下庄)

小豆島バプテスト教会まで、自宅から約5時間半かかるため、前乗りさせていただきました。当日は、6月とは言え日差しが強く暑い日となりましたが、教会員の皆様に快く迎え入れてくださったこと、感謝いたします。

礼拝には、お子さんを含めて10名の出席があり、祝福されたときを守ることができました。かなり以前か

ら無牧となっているにも関わらず、心の行き届いた教会の様子を見ることができ、守ってこられた教会員お一人おひとりの労苦に主からの祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

前日、巡り回った島内の様子を見ただけですが、小豆島においては、まだまだ教勢を回復できるだけのポテンシャルが残されていると感じました。ふさわしい定住牧師が与えられ、配慮の行き届いた伝道・牧会がなされるよう祈り求めたいと思います。また、このことのために部会や同盟としても何らかの支援ができないかとも思います。

【向島キリスト教会】

石塚多美子(瀬戸田)

今年度は、向島キリスト教会に派遣されました。瀬戸田のこども礼拝が終わってから、礼拝に遅れないようにと急いで移動しました。到着すると、C.S.の礼拝が行われていて、奉仕者が熱心にメッセージを語り、教師のみなさんが耳を傾けていました。現在、子どもたちはいませんが、毎週欠かさずに礼拝を捧げている真摯な姿にまず心が整えられました。

礼拝前の賛美の時には、毎週担当者が賛美の曲を選んでリードされているそうです。賛美の捧げ物をもって主日の礼拝に入っていきます。主の祈り、使徒信条



によっても、主に心を集中させられていきました。
礼拝後、久しぶりにお茶の交わりが再開されたとのこと、私も加わることが出来、交わりの時が与えられました。以前、幼稚園があった向島、その卒園児という40代の方が来られていました。懐かしい思いをもって、イースターの時に久しぶりに教会を訪ねたそうです。神さまのお導き、お招きに一人一人がどう応えていくのか、私たちにはわかりませんが、その方が実際に礼拝に集ってきている姿に、博愛幼稚園の卒園児たちの将来の姿を見るようで、とても心があたたかくなり励まされました。感謝の1日でした。



【土生バプテスト教会】

井上正之（小豆島代務）

今年は土生バプテスト教会での奉仕でした。尾道からバスに揺られて50分ほどの海沿いの停留所で下車、そこから約10分坂道を登り高台の教会堂へ。礼拝の奏楽者は90歳を超えたご婦人で、長く教会を支えて来られた方でした。こども園や幼稚園の先生方も出席されていて恵まれました。都合で奉仕日が6月30日になったお陰で林原弘牧師とも礼拝前後にゆったりとした語らいの時を持つことができました。よき交わりの時を感謝いたします。



【瀬戸田バプテスト教会】

林原 弘(土生)

「試練と共に耐えられる道」 I コリント信徒への手紙 10章 1～13節

コリント教会に書いた手紙の中で「偶像への礼拝に対する警告」がある。

モーセと出エジプトを試みた彼らの大部分は荒野で滅ぼされた。その理由の一つは、彼らが「みだらなことをした」ことによる。一日2万3千人滅んだ。2024年同盟総会でパワーハラスメント事件に対する報告がある。バプテスト教会の持つ各個



教会主義が、全体を滅ぼす危険について考え、祈りたい。

【中島集会所】

トゥン・カン・クップ(広島)

主の御名をほめたたえます。今年度の部会講壇交換は6月16日(日)に行われ、私は、久しぶりに中島集会所へ行くことが出来ました。行く時、ピーターさん家に寄り、楽しい交わりが出来ました。彼は用事があったため、教会には来られませんでした。礼拝では、中川兄と能田姉、富永真由子姉の3名しか来られませんでした。中川兄が心臓の手術をされ、長い期間入院された時、朝と晩、1日2回一緒にお祈りをしたことがありました。当時は礼拝に戻れるような状況ではなかったが、戻れたのは本人の信仰が強かったため、神様が奇跡を起こされたのだと思います。能田姉も素晴らしい信仰を持っている方なので、逆に励まされました。恵まれた講壇交換でした。

【安下庄集会所】

石塚多美子(瀬戸田)

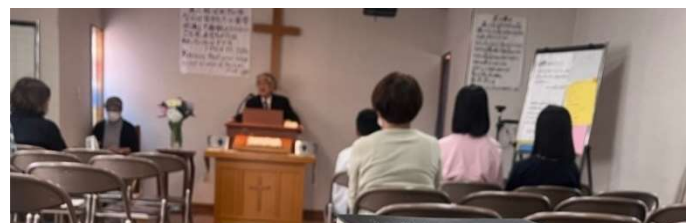
向島キリスト教会の礼拝と交わりのあと、急ぎ、車で安下庄集会所の礼拝に行きました。ここ1,2年は、福音丸記念会堂で毎週捧げられている礼拝に献身的にご奉仕くださる中川純良師と中川このみさんにすべてをお任せしていたので、私が訪問するのは久しぶりでした。午後の礼拝に変更しましたが、移住されてきて熱心に礼拝している岡本さんと、同じように移住して島の中で様々な活動をされている長谷川さんの3人で礼拝を捧げることができ、ちょうど同年代でしたので、とても励まされました。私自身が、改めて、主日にこの礼拝堂で礼拝が捧げられていることの大切さを実感しました。そして、神さまが派遣してくださった中川ご夫妻の存在に感謝しました。



【広島平和キリスト教会】

大谷孝志(向島)

広島平和キリスト教会は、私の前任地だったので講壇交換教会として避けていました。しかし、今年度で引退教師となるので、奉仕を希望させて頂きました。懐かしい就任当時の方々の中には8年ぶりの方もいて、久しぶりの再会に心躍るものが有り、短時間で主にある楽しい豊かな交わりの時を持てました、また、愛餐会をして頂き、心も体も豊かに養われ感謝でした。



関東学院六浦中高ボランティア(2024/8/17-18)

8月17日～18日 関東学院六浦中学・高校 宗教部主宰のボランティアキャンプが行われ、高校2年生14名と引率教師2名の16名が、内海に訪れて下さいました。

17日は向島教会を来訪、教会で昼食、開会礼拝後、



綿谷兄、溝淵姉、智子姉の引率で2時間半、第二次世界大戦捕虜収容所関係施設の見学をし、その後真夏の暑さの中、教会前庭の草取りのボランティア活動をされ、見違えるように綺麗なり、感謝でした。

その後、一行は瀬戸田に移動、その夜は、サンセットビーチでの夏祭りを楽しむ時間もありました。翌日は、やさしい神さまのへや(子どもの礼拝)から来て、子どもたちとともに礼拝をし、使徒バスケットなど、ゲームをしてゆっくり遊んでくれたので、子どもたちも大喜びでした。主日礼拝も、礼拝室がいっぱいで、実に嬉しい時でした。午後は、幼稚園の園庭や教会のお墓周りの草取り、木々の伐採までも精力的にかかわり、汗だくでご奉仕くださいました。疲れているのに、夜は、福音丸伝道について熱心に学んで、翌日は、平和学習のため、広島へと移動していきました。お働きに感謝しています。(大谷孝志・石塚多美子)



関西・関東合同ユースキャンプに参加して(2024/8/13-15)

広島平和キリスト教会：チン・ハウ・リャン 二泊三日ありがとうございました！！

正直1日目は、初めての方ばかりで不安だったけど、BBQしたり、ピザを作ったり、たくさん賛美したりしていくうちに、たくさんの方のことを知れて、仲良くなることができました！！

みんな優しく、お別れするときはとても寂しかったです！

個人的に一番楽しかったのは、グループでの発表で

す。

自分のグループ「さしみ定食」は、きらきら星を動物、キャラクターの鳴き声を真似て合唱しました。私はセミの鳴き声を担当させていただき、とても楽しかったです！！☆

とても充実した時間となり、神様に感謝です！！ありがとうございました！！



神学生研修旅行(2024/9/6-10)

【向島キリスト教会】

9月6日に神学校研修旅行中の篠遠神学生、小野師、山崎師が向島教会を来訪し、大谷師と交わりの時を持ちました。8日の礼拝で篠遠誠司神学生(教師養成コース2年 磯子の丘教会)が説教されました。分かり易く、心に残る説教でした。礼拝後、篠遠神学生を囲んでお茶の会をして交わりの時を持ちました。尚、この日を神学校を覚える日とし、礼拝献金を神学校に献げました。

(大谷孝志)



【瀬戸田バプテスト教会】

神学校研修旅行の一行が来られた日、早朝に伊澤岩雄さんが天に召されました。ばたばたと葬儀準備をす

る中、式場となる原伝道所に、小野慈美師、山崎清美師、篠遠誠司神学生の3名が駆けつけて祈りを捧げてくださり、翌日の葬儀にも出席されました。それは、捜真バプテスト教会が母教会であった伊澤さんにとっても、初めて島に来られた御次男さんにとっても、何よりも、私たち教会員にとっても、心強く励まされる時となりました。この出来事に神さまのお計らいを感

じて感謝しました。また、2017年に神学生として来られた篠遠順花師のパートナーが、神学生として内海に来ていることに何か強いつながりを感じて、心あたりました。

(石塚多美子)

【広島平和キリスト教会】

主の御名をほめたたえます。今年の9月9日(月)神学生研修旅行で代行校長の藤岡先生と篠遠誠司神学生が広島平和キリスト教会に来られました。私がお昼を準備して迎えようと思ったのですが、膝蓋骨骨折をしたため、何にも出来ず、逆に藤岡先生がお弁当を買って来て一緒に食べ、楽しい交わりが出来ました。お見舞金まで頂き、励まされました。私にとっては、恵まれた、神学生研修旅行でした。これからも、神学校が祝福されますようにお祈りします。

(タウン・カン・カップ)



女性会 小豆島問安(2024/10/26)

広島平和キリスト教会：樞原直美

10月26日、久しぶりの問安で小豆島バプテスト教会をお訪ねしました。3つの教会から4人ずつ、計12人のメンバーが集いました。一緒に昼食をとり、春風ふわりさんの腹話術に笑って楽しいひと時を過ごしました。そうめん汁がとても美味しかったです。

食後はお茶を飲みながら、冊子「アパルーム」を使った交わりの時を持ちました。聖書箇所はテサロニケの信徒への手紙一 5:9~18で、「継続した実践」というテーマで語り合いました。「信仰を続けるよう励ましてくれる人」「なぜ継続が大切なのか」などの項目について、一人ずつお話してもらいました。趣味やこれまでの経験など、他のいろいろなお話も聞けて良かったです。お土産に塩漬けのオリーブをいただき、帰り道で観光スポットのエンジェルロードが見られて嬉しかったです。

実際に行ってみるとやはり長い道のりで、小豆島の姉妹方が何度もこうして来てくださっていたのだと実感として分かりました。内海部会がたくさんの人の努力で支えられ、今日まで続いてきたのは尊いことだと思いました。また、改めてリアルにお会いする良さを感じました。今後もこのような機会を作ることを積極的に考えていきたいです。

たくさんのご協力感谢您的。元気でまたみなさんに会えますように。



信徒研修会(2024/11/4)

2024年11月4日(月・祝)向島キリスト教会にて、松田牧人師(利府キリスト教会)をお招きし、「これからの教会を考えると～地方にある教会の活性化、形成の視点から～というテーマで信徒研修会を持ちました。



日本のプロテスタント教会の現状として、信徒と牧師の高齢化、無牧・兼牧の教会の増加、受洗者数の減少、経済的衰退等を踏まえながら、三つのR(Remember:思い起こす, Repent:

悔い改める, Recover:回復する)をキーワードとして、これからの地方教会のあり方について、お話していただきました。



信徒研修会に参加して(感想)

広島平和キリスト教会：山根幹枝

11月4日、松田牧師をお迎えして信徒研修をすることができました。利府キリスト教会には今、多くの若い信徒さんも増えていてとても興味があり、お話を聞いてみたいと思いました。

先生のお話を聞き、長い年月をかけて、痛みや忍耐を伴いながら、少しずつ改革をされたのだと思われました。参加した中学生にとっても、とても面白く興味深いお話だったそうです。信徒それぞれが恵みをいただきました。

また機会があれば、先生のお話をじっくりと聞いてみたいと思いました。遠路はるばる東北から広島まで来ていただき、本当に感謝でした。

瀬戸田バプテスト教会：三國 郁子

11月4日に向島キリスト教会で行われた「内海部会信徒研修会」に参加させていただきました。

教会のみなさまとの交わりも楽しみでしたが、今回は、特別な思いで、わくわくしながら、この日を待っていました。なぜなら、今回の講師は利府キリスト教会の松田牧人先生だったからです。

以前より、石塚多美子先生から「この歌、素敵だから、一緒に賛美しましょう」と牧人先生の作詞作曲されたプレイズソングを何曲か教えてもらい、そのメロディーも歌詞も私の心に響いて、神さまからのメッセージをいただくことができたのです。

牧人先生のお話の中で、東日本大震災後、牧師先生ご自身が体調を崩し、信徒のみなさまに休息をいただき、支えられましたという話を聞きました。私たちにとっても、大切な牧師が、日々忙しく過ごされている姿を見ながら、いつも心配し、祈っていますので、とても身近な話題で共感出来ました。信徒一人ひとりが出来る事を見つけ、牧師を支え、助け合っていきたいですね。

信徒研修会の終わりに、私たちからの突然のリクエストにもかかわらず、牧人先生がピアノの弾き語りで賛美をして下さいました。

♪ どんなときでも わたしのくちは イエスにむかって
うたをうたう ♪

知らず知らずのうちにこの歌を口ずさみ、心のエネルギーをチャージしながら過ごすことが出来ます。

この素晴らしい出会いを神さまに感謝しています。ありがとうございます。

また、準備から片付けまで、沢山のご奉仕をして下さった向島キリスト教会のみなさま、ありがとうございました。

向島キリスト教会：綿谷 剛

松田牧人師には、一昨年、仙台への出張の際に、利府にも立ち寄ったのですが、お会いできなかったのが、今回、生でお話を聞くことができ、感謝です。

今回の信徒研修会は、前年度の斉藤隆二師（吉備聖約キリスト教会）のお話について、教会はどのように変わっていくべきかについて学びました。

多くの教会は、信徒の高齢化が進み、若い世代の人たちがなかなか教会に繋がらず、教会自体が老いていく状態になることに手をこまねているのではないのでしょうか。そこに集う信徒は、そこで残りの信仰生活を心地よく過ごし続けるために、馴染んできた教会のあり方からの変化を望まず、そこに留まり続けているかもしれません。

そんな中、聖書が教える教会のあり方とは何かを追求し、信徒の方々と対話を続け、長い時間をかけて、変革を行い、高齢者から青少年に至るまで生き生きと信仰を育み続ける教会づくりをされて来られたことに感銘を受けました。

今回、信徒研修会として行ったのですが、やはり、利府の例は、牧師がリーダーシップを発揮され、奮闘された結果であると感じました。多様な考えを持つ信徒たちの中で、信徒の側から変革することの難しさについて考えさせられました。松田師のようなリーダーシップのある牧師は、1つの教会で、ひとつの変革を実現されたら、10年位で困難の中にある他の教会に移り、新たな変革をもたらし続けていただけないかなと、勝手にそんな思いになりました。

新年礼拝(2025/1/13)

10時半前から、ZOOMの部屋にそれぞれの教会から、個人からの入室があり、距離を超えて、画面で一つになる不思議な空間(私は今でもそう思っています)を共有しました。内海で生まれた讃美集I「瀬戸の海から」を賛美し、大谷孝志牧師より、「信仰の出発点」と題して、エフェソの信徒への手紙1章15~23節からメッセージをしていただきました。パウロの祈りにあるように、私たちが日々新たに信仰者として歩んでいくために、何よりも神さまを深く知る大切さを示されます。神さまを知ること、自分自身を知り、そして共に生きる相手を知ることができるのです。その中で、神さまのみむねを、私たちが現していくのだと改めて教えられました。そして、私たちは、主にあ



って日々新たにされる者として、過去ではなく、今日をまた出発点として生きる事ができるという御言葉に、大きな励ましを受けました。

礼拝のあと、教会のこと、個人的なことを分かち合いました。リモートであるからこそ集まり交われるこ

との恵みを感じましたが、昨年女性会が小豆島に訪問してリアルな交わりをしたことでそれぞれが力を受けたという分かち合いを聞くときに、時間をかけても、その場所に行き、そこで生きている方々に会いについて交わることの大切さも同時に感じます。2025年、ど

ちらであっても、主にある交わりが豊かに続いて行くことを祈り願いました。各教会1名ずつ代表で祈り、会を閉じました。参加者は、広島3名、小豆島4名、瀬戸田1名、向島6名の14名でした。

他教団との交わり

日本基督教団・新生会教師会(2024/6/24-26)

日本基督教団 花巻教会牧師 鈴木道也

昨年の6月24日から26日にかけて、瀬戸田バプテスト教会を会場に日本基督教団新生会の教師会を開催しました。今回の教師会の主題は、福音丸伝道の足跡をたどることでした。石塚多美子先生が全面的にご協力くださり、福音丸ゆかりの教会や幼稚園を一つひとつ、想いと祈りを込めて、ご紹介くださいました。心より感謝申し上げます。

私の父方の祖父・鈴木正弘は戦後の福音丸の運営委員長をしておりました。福音丸について本を読んだり断片的な話は聞いてはいたものの、実際に現地を訪ねてお話を伺うのは初めてでした。今回の教師会は祖父の足跡をたどる旅ともなり、その意味においても、私たち家族にとってかけがえのない3日間となりました(妻と私の両親も一緒に参加させていただきました)



た)。

2日目には、かつて祖父が牧師をしていた土生バプテスト教会を訪問し、林原弘先生とお嬢さまからお話を伺うことができました。また、日本基督教団 岩城教会を訪問し、代務の廣瀬満和先生と教会員の方からお話を伺い、共に祈りを合わせることができました。岩城教会を開拓伝道した村上寛七牧師は私の母方の高祖父の弟にあたります。

福音丸は1982年に働きを終えましたが、先人たちが伝えたその信仰と希望と愛のともしびは今も瀬戸内海の諸教会・伝道所にもされ続けていることを、3日間の旅で深く実感いたしました。訪問先の教会で皆で歌った『内海で生まれた讃美集I 「瀬戸の海から」』の賛美歌からも、イエスさまの恵みが皆様の内に生きて働いていることを感じ、心が熱くなりました。

この度は貴重な経験を心より感謝申し上げます。どうぞ今後も親しいお交わりをいただければ幸いです。



聖約教団・中高生デイキャンプ(2024/8/1)

2024年8月1日に瀬戸田バプテスト教会原集会所にて、日本聖約キリスト教団の中高生のイベントが行われました。

スタッフの原田真理子姉(ユナイティングチャーチ吉備)がレポートを寄せて下さいました。



ユナイティングチャーチ吉備：原田真理子

恵みに満ちた1日を過ごすことができました。感謝です！ 神様を感じながら過ごし、中高生にも癒されました。

多美子さんの神様に強く結びついている姿と、神様から与えられた自然(海、空)を心から喜んで楽しんでいる姿に非常に大きなパワーをもらいました。

多美子さんが、御言葉(ヨハネ、使徒16章)を土台に希望をもって宣教されていることがユナイティングチャーチで今語られているメッセージと結びつきました。



「こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。

このキリストにあつて、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。

あなたがたも、このキリストにあつて、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」(エペソ 2:19-22)

御言葉を土台に、神様を要の石にすることで、神様は、どんな場所でもどんなときでもどんな人にも働かれる、共にいてくださるのだと励まされました。

自分にできることはない、と悲観的になるのではなく、まずは神様を見上げて、祈りたいと思います。

「しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの



最も聖なる信仰の上に自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。」(ユダ 1:20)

絶対にまた行きます☆

「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」(ピリピ 1:6)

信仰の分かち合い(証し)

【アフリカのウガンダから日本へ】

向島キリスト教会：
Yiki Walter



私はウガンダの北部、マディ・オコロ地区でクリスチャン家庭に生まれ育ちました。まだ子どもだった頃に洗礼を受け、日曜日には教会に通い、家では良い行いをするこ

とや祈り方など、キリスト教の価値観を教えられました。子どもの頃、教会で最も憧れたのは、クリスマスのような行事でのクリスチャンの集まりで子どもたちがダンスなどを披露するのを見ることでした。しかし、私はそれにあまり参加することができませんでした。というのも参加者はたいてい仕事が終わった後の夕方に家から遠く離れた場所で練習していたからです。小学校を卒業した後、私は中学と高校は車で1時間半ほどの場所にある全寮制の学校(Vurra Secondary School)に行くことになりました。

中学・高校時代は、経済的にとても苦しい生活でした。私たちは火をおこすための炭を作って道端で売り、自給自足の農業を営みながら、生計を立てていました。しかし、そのお金では学費を払うのに十分ではありませんでした。私たちは手押し鋤を使って大きな農地を裸足で耕していました。時には鋤で足を切ったり、サソリに刺されてしまったりすることもあり、少し不安に思うこともありました。しかし、私は家族に貢献したいという強い気持ちがあり、その活動を精一杯やっていました。

何度もあったことですが、学校に数週間も遅れて登校しなければなりません。そして登校してから

数週間後には、学費滞納者として家に帰されることがほとんどでした。家には電気がなかったので、夜間の勉強は非常に困難でした。そのため、私は小さなパラフィンランプの明かりで勉強する習慣を身につけました。学費を支払えないため家に帰されることが多く、学校に戻ることはいつも難しいことでした。そのため、私の物理の先生である私の叔父(Ewama Louis)は、学校の近くにある叔父の家に行き、そこで勉強を続け、叔父と対話するように私に勧められました。その時から私は全く学校には行かず、何週間か友人の店で販売員として働き、また叔父の家から通学することもありました。多くの授業を欠席し、学費滞納者であり食事券を持っていなかったため、食事にありつくのにも苦労しました。しかし、私は学校の生徒のリーダーたちと良い関係を築き、コミュニケーション・スキルを身につけたので、食事の時間にはいつも彼らから食事をもらっていました。

それでも私は諦めることなく、勉強を続け、最善を尽くしていました。中学の最終学年、16歳の時、私はイエス・キリストに人生を捧げる決意をしました。もちろん、私は既にクリスチャンであり、定期的に礼拝に出席し、祈っていましたが、この時、私は会衆の前でイエス・キリストを私の主、救い主として従うことを公に告白しました。休みの間には、私は日曜学校の教師としての訓練も受けました。子どもの頃から憧れていたのですが、その頃は日曜学校に参加する時間がなかったので、訓練はとても楽しく感じました。その後、日本に行く機会を得るまで、私は学校と村の家で日曜学校の教師として十分に奉仕しました。神様が与えて下さったこの特権のおかげで、私は聖書を読み、子どもたちのために劇などの活動を計画することができ、心が満たされ、試練を乗り越えながら信仰が成長しました。ある時から、私は朝3時頃に数分間の

早朝の祈りをする習慣を身につけ、これが信仰の成長に大きく役立ちました。私たちは、神様が道を開いて下さるよう、子どもたちとよく一緒に祈りました。学校では、私は聖句会 (Scripture Union group) に参加し、友人たちも私のために祈り、断食してくれました。

中学を卒業した後、私は休みの間に体調を崩し、学校に戻るための資金が間に合いませんでした。高校には、学期末の1週間前に学校に行き、入学手続きだけをしました。父は私の学費を支払うお金がなかったのですが、高校の校長 (Mr. Dima Dane David) は、私がよく規律を守り学校での成績が良いことを理由に、学校に残ることを許可してくれました。しかし、高校の最終学年の全国最終試験の直前に、私の学費の未納額があまりにも大きくなり、学校側は私のケースを容認できず、家に帰されることになりました。この時、David Onzima という牧師が私の話を聞き、彼の所属する団体の助けを借りて、学費未納額をすべて清算し、勉強し続けるよう励ましてくれました。高校の間、私は学費を払っていませんでした。洗濯機、問題集、衣服、緊急用のお金など、基本的な生活必需品もほとんど持っていませんでした。牧師が私の学費を払ってくださったので、やっと高校の制服を受け取ることができたのですが、卒業のわずか数週間前でした。

全国高校試験が終わると、私は村に帰り、農作業を続けました。試験結果が発表されたとき、驚いたことに、私は地区で最も成績の良い生徒の一人でした。その後、私は Adumi 中学校で物理学と ICT を教える機

会を得ました。この時、私は「あしながアフリカ支援 (AAI)」プログラムのことを知り、教えることで得たお給料が応募の際にとっても役立ちました。応募したところ、選ばれて日本に留学することになりました。AAI プログラムでは、サハラ以南のアフリカ諸国から国ごとに1人または2人の奨学生が選ばれ、アメリカ、イギリス、フランス、日本、ブラジルなど、アフリカ以外の国の大学への学費や生活費など、全面的な留学支援が受けられます。

2017年9月に日本に来て、東京日語学院で日本語と日本の文化を学びました。2019年3月に卒業後、機械工学の学士号を取得するために東海大学に進学しました。全て日本語で勉強しましたが、非常にやりがいがありました。大学時代には学校の成績を維持するために努力しながら、多くのインターンシップ、ボランティア活動、アルバイトをしました。インターンシップで最も気に入った会社の一つが、広島県の因島にある(株)トロムソでした。

2023年3月に大学を卒業した後、私は(株)トロムソの機械設計組立課に正社員として就職しました。弊社では、もみ殻練炭機やバイオ炭製造機の製造・販売を行っています。また、バイオ炭の農地への応用、温室効果ガス分析、排出権支援などの技術ノウハウも提供しています。

私の将来の夢は、産業の発展を促進し、農業、実践的な教育、エネルギーなどの改善に貢献し、特に発展途上国の生活水準を向上させることです。

(日本語訳：綿谷 剛)

【向島教会に戻って来た！】

向島キリスト教会：新田治雄



私は2024年イースター礼拝の時、向島キリスト教会に不思議と導かれて戻って来ました。「戻って来た」と言いますのは、向島キリスト教会が私の出生の教会であり、私が幼少の頃、母親に連れられて色々育んでもらった教会であるからです。

私が中学に入る頃、母の事情でこの教会を離れることとなりますが、次へと移った教会でも私の信仰の灯火は決して途絶えることなく、浮き沈みを繰り返しつつも燃え続けてくれたのでした。

もう一つ「戻って来た」理由に、私の精神病が大きく関わっています。私は現在44歳ですが、私が18歳の時「双極性障害」を発症します。それにはI型とII型がありました。私の場合は症状の波がより大きく激しいI型に分類されます。以来、私は「そう」「うつ」状態を不定期間、交互に転換しながら、ここまで生きて来ました。私はこの症状や経緯をもっと詳細に

説明したいのですが、この主旨から外れてしまうので割愛します。

2023年の大晦日、私は3年のうつ状態から解放され、そう状態へ転じました。そうすると、その症状の影響で、私は過剰に活動します。うつ状態でなかなか通えなかった教会へ足を運べるようになります。ところが感情の自制、抑制が効きにくくなって、喜怒哀楽も過敏になっている私です。そこで、自分の内にある正義感と言いますか、「これはおかしい！」と思う事は、躊躇なくキツイ口調で面と向かって発言するものですから、当然対立や亀裂が生じてしまうのです。私が36歳の頃、牧師と対立して、長年在籍していた教会を私は遂に飛び出しました。そこからは自分の目で教会を探して歩く道が始まったのです。

ここでようやくある教会に落ち着き、母と共に転会する手続きの矢先、そう状態の私と牧師で対立が起きてしまい、私の望まぬまま母が残され、私は半ば追い出される形で、この教会と離別せざるを得なくなりました。この出来事に私は大きなショックを受け、その帰り際に私は大橋から身投げしようとしたのです。その時の心境は妙に穏やかで、春の日射しと陽気と丁度重なっていました。それを首の皮一枚で食い止めてくれたのが、今から十年前に教会で出会い、いまだに親交を続けている友人でした。その友人とまた一から教

会探しへと向かった初めの教会が「向島キリスト教会」だったのです。向島生まれの向島育ちである私が住む最寄りの教会だったし、懐かしさも兼ねて日曜当日、直ぐに訪問して大谷牧師と面談しました。私が中学に入る頃に出てから30年が経過した向島キリスト教会、会堂も新築され、すごく良くなり、それも10年経過しています。私の命を救ってくれた、まだ求道中の友人は結局向島キリスト教会に来ることはありませんでした。私の母とも離れてお互い別の教会で礼拝しています。私だけが向島キリスト教会に戻り、ここへ転会できるに至りました。今のところ幸いにも欠かさずに礼拝出席できています。この教会の信徒の方々とも本当に温かい交流があります。奇跡的な結びつきのお会いや私生活への進展も起こりました。神のなさる取り計らいは、人知を遙かに超えた道である事を私は身を持って痛感しております。

最後にコリント人の信徒への手紙二 12章 7-10節

(新共同訳)を引用し、私の細やかな文章を締め括らせて頂きます。それは私の境遇と重なり、共感を覚えている為です。

「また、あの啓示された事があまりにもすばらしいからです。それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」

【介護の日々を通して】

向島キリスト教会：宮本早苗



はじめまして、宮本早苗です。よろしくお願ひします。

私の1日のスタートは、神様との交わり、ディポジションから始まります。すると平安をいただけます。

3月に主人の仕事が終わり、親の介護のため、二人の親のお手伝いができたらと思い、中間地点を選び、

生名島へ住むことにしました。

私の母は、因島に住んでいて、弟と二人暮らしで、母の面倒を見てくれて、夫婦で時々掃除に行ったり、用事がある時は手伝いに行っています。

主人の両親は佐島に弟と3人で暮らしています。主人の母親が認知症で介護3で自分のことができなくなっていました。お風呂やトイレとか着替えもお手伝いしないとできなくて、唯一、食事は自分で食べることができたので助かりました。

足が悪いため、手すりにつかまって誰かが支えてあげないといけない状況でした。日中は、夫婦で見て、夜と日曜日は父さんと弟が見てくれていました。

用事がある時は、主人の妹さんがお手伝いに来てくれていました。お母さんの介護も大変で、女性だから、お風呂とかトイレとか着替えは、私が手伝いするために食事の支度がままならず、家に帰って夜食を済ませた後、明日の料理を少し作って行っていました。6月19日、お母さんの施設の入居が決まり、感謝でした。その後、父さんが認知症になり、お金がない、取られた、通帳がないと言うので、皆で探すのですが、あつたら「すまんかった」と言っ、また翌

日、行くと同じことの繰り返しで、私たちは、食事代もいただいてないのに辛かったです。私達夫婦が取った、取ったと言われて悲しかった。主人は怒るし...

認知症がどんどん進んでいくにつれて、攻撃型のレビ症の認知症となり、見えないものが見えて、聞こえない声が聞こえて、本当に介護が大変で心が折れそうになり、神にいつもとりなしの祈り、赦しの宣言をして、平安が与えられますように祈り、また、夜、父が家を出て帰ってこないで弟から電話があり、探すことも何度もあり、大変でした。相手に合わせる生活の中で、ありのまま受け入れて、おだやかに、少しでも喜んでいただけたらと思いつつ、お父さんのお世話をさせていただけていました。常に祈りの中で生活させていただき、神様が共にいて助けてくださいました。感謝でした。

最期は、誤嚥性肺炎で入院して、2023年4月に亡くなりました。お父さんのお世話ができたことを感謝です。主人のお母さんから、お父さんのお世話を4年間させていただき、そして今、お母さんは89歳になり、施設でおだやかに元気に生活しています。

1週間に一度だけ、日曜日の礼拝に参加させていただき、神様に祝福されて、リセットして介護することができたこと、神様に感謝します。

そして牧師先生や信徒の皆さまによくしていただきありがとうございます。

(これからもよろしくお願ひします。) これからも神様に感謝して歩みたいです。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願いごとを神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安があなたがたの心と意思をキリスト・イエスにあつて守ってくれます。」(ピリピ4:6~7)

教会短信

【小豆島バプテスト教会】

○主日礼拝

5・7・9・10・11・3月に井上先生が来島し、礼拝が行われました。交わりの時間は簡単なテーマを決め話し合うようにしました。来島されない時は、日ノ本教会の説教をメールでもらい、礼拝説教として聴いています。

○合同礼拝（日本キリスト教団内海教会と）

8・12・1・2月に行く。12月のクリスマス礼拝は当教会にて福田哲牧師によって行われました。回を重ね、両教会の交流が深められています。

○内海部会講壇交換（6月16日）

中川純良師 説教題「無限大の赦し」

○内海女性会問安（10月26日）

広島平和キリスト教会4名、向島キリスト教会4名、小豆島バプテスト教会4名が参加しました。短い時間でしたが、楽しい懇親と学びの方法を知るなど良い刺激になりました。翌日の礼拝には向島キリスト教会5名が出席され、井上先生の説教を共に聴きました。



○召天者記念礼拝（11月24日）

メールで召天記念の説教を聴きました。

○信徒は年齢を重ね、礼拝を長く休む信徒も出てきました。でも若い家族の明るさに和まされ、井上先生の祈りに励まされています。そして、内海部会との交わりで刺激を受け、少しは前向きに歩めています。神様の守り導きを感謝します。

（庫本由美子）

【向島キリスト教会】

1月1日 2024年元日が月曜でしたが、守りたいとの要望があり5名が元旦礼拝を守りました。

1月21日 礼拝後、消防署の方3名により防火防災講習会が行われ、14名が出席南海トラフ大地震に備え、地震・津波の避難の方法について学んだあと、火災が発生したときのために、消火器の使い方の実施訓練などを行いました。

2月5日 バプテストデーの礼拝を守り、礼拝献金54,000円を神学校に献げました。

2月23日 「部会信徒研修会」が行われ、向島が9名参加、広島4名、瀬戸田1名、高槻1名が参加、前神学校長の益巖師の講演を通して教会の業としての伝道者養成の大切さを学びました。

2月25日 教会の出発点となる家庭集会を始めた荒川深美師の召天を記念し、毎年、教会として召天者記念礼拝を守り、本年は偶然同じ日であり、遺族を含む22名が出席しました。

3月3日 「教会のビジョンを語る会」を行い、アンケートの集計表を参考に、自由に話し合い、教会の来年度の在り方を皆で考えました。

3月29日 受苦日礼拝が男5名、女5名が出席して行われました。

3月31日 イースター礼拝に22名が出席、今年もコロナウイルスの感染防止の為、卵隠しと愛餐会はできませんでしたが、多くの方々と主イエス様の御復活をお祝いできました。

5月4日 教会学校主催でお楽しみ会を行い、近所の家族を含め19名が参加、お好み焼き、おにぎり等

を食べ、楽しいゲームをし、久しぶりに子ども達の声が響く教会になりました

5月12日 「母の日」ですが、こどもの日、父の日と合わせ「みんなの日」として礼拝を守り。みんなにCSからプレゼントがありました。

5月19日 例年通りの日程で定期教会総会が行われました。現在会員22名の内13名出席で総会が成立し、大谷師の代表役員(牧師)の任期一年短縮を含む全ての議案が承認、可決されました。

5月28日 聖霊降臨記念日礼拝に23名が出席、全世界の教会の誕生日を祝いました。

6月16日 部会講壇交換が行われ、瀬戸田教会の石塚多美子牧師が説教され、大谷師は広島平和教会で説教でした。

7月21日 内海出身の川原勲三帯広伝道所牧師を説教者に迎えて礼拝を守りました。

8月11日 関東学院六浦中学・高校宗教部主催の向島・生口島ボランティアキャンプが行われ、中高生14名が引率教師と共に向島教会を来訪、開会礼拝の後、2時間半、捕虜収容所関係の2箇所を見学し、その後、教会前庭の草取りの奉仕をし、生口島(瀬戸田教会)に移動しました。

9月6日 神学校研修旅行中の、篠遠神学生、小野師、山崎師が向島教会を来訪、大谷師と交わりの時を持ちました。

9月8日 篠遠 誠司神学生が説教をし、この日を「神学校を覚える日」とし、礼拝献金50,000円を神学校に送金しました。



9月26日 水曜の祈祷会をこの日に変更して、内海部会問安中の同盟総主事代行の田島慶康師と共に祈祷会を行い、その後、先生と同盟についてと私達の教会の現状を知らせ合う懇談の時を持ちました。



9月29日 礼拝後、新田兄の転入会式が行われ、教会員が23名になりました。その後、CS主催のピザパーティー練習会を原集会所で、10名が参加して楽しく行いました。

10月14日 CS主催ピザパーティーを、原集会所で行ない男5名、女9名が参加し、楽しくピザ作りをし、出来上がったピザを順次食べ、ゲーム等を行いました。

10月26日 部会女性会の小豆島教会問安に4名が参加し、良い交わりの時を持ちました。

11月3日 BWA世界祈祷日集会が行われ、この会の為の献金13,460円を全国女性会に送金しました。

11月4日 「内海部会信徒研修会」を向島教会で行い、向島10名、広島11名、瀬戸田3名、他部会教会2名(リモート)が参加、講師の利府キリスト教会松田牧人師の講演を聞き、その後、各教会の情報交換と自己紹介があり、祝された時を持ちました。

11月24日 礼拝後、クリスマスデコレーション等の飾り付け、会堂清掃と前庭の草取りを有志により行いました。

12月3日 大谷牧師が教誨師をする尾道刑務支所有井作業所クリスマス会に、3名が参加しました。

12月7日 フルートとピアノによるクリスマスコンサートを行い、教会員10名、友人や近所の方31名が出席、クリスマスキャロル等の名曲を鑑賞、楽

しくクリスマスを祝いました。

12月8日 街角クリスマスキャロルが尾道商店街の郵便局の東側広場で行われ、向島7名と、尾道西、吉和、尾道カトリック、尾道福音の諸教会の姉妹と共にクリスマスの喜びを伝えました。



12月22日 クリスマス礼拝前のCS礼拝には今年度初めての生徒が与えられました。聖日礼拝には多くの方々が出席し、祝会は谷岡兄の司会で紙芝居やCS教師他による「靴屋のマルチン」の劇、フルート、二胡の演奏、聖歌隊の合唱、今年度最後となる牧師の座布団回し等の出し物があり、楽しい時を持ちました。出席者は昨年と同じ31名でした。



12月24日 19:00からのイブ礼拝には、男性の普段の礼拝出席者7名全員と女性2名が出席し、静かに祝されたクリスマスの夕べの礼拝を守りました。

(大谷孝志)

【土生バプテスト教会・重井集会所】

3月31日(日) イースター礼拝、墓前礼拝

4月24日(水) 岡野喬木師(85才) 召天

喪主 慶子夫人

5月12日(日) 土生バプテスト教会総会

6月24日(月)~25日 日本基督教団新生会14名が土生教会などに来訪

6月30日(日) 「主は私の避けどころ」井上正之牧師(内海交換講壇)

8月4日(日) 平和礼拝

9月8日(日) 小野慈美師(神学生内海訪問)

11月18日 大関敏明師召天(86才)

11月20日 告別式(於：福岡城南区楠会館、司式：林原弘、喪主：吉留まり)

12月18日(水) 重井クリスマス礼拝・祝会



12月19日(木) 田熊クリスマス礼拝

12月22日(日) 土生バプテスト教会クリスマス礼拝

(林原弘)

【瀬戸田バプテスト教会】

瀬戸田教会

今年は、夏の終わりに体調をくずし、9月、11月と二回も入院してしまいました。それぞれ、瀬戸田の礼拝を2週間もささげることができず、牧師としてとても情けなく、信徒のみなさまに申し訳ない気持ちで心が折れそうでした。しかし、昨年7月より中島の昼礼拝に牧師が出かけた際に、安下庄集会とリモートで合同礼拝を捧げるようになっていたので、今回、私が不在で奉仕が出来なかった4回の礼拝を、中川純良師が担ってくださって、本当に心強く安心して治療に専念させていただきました。また、牧師が動けないことで、信徒お一人お一人が普段はもちろんですが、2倍も3倍も、賜物を発揮されてお働きを担ってくださったことに、感動しました。主がすべての時をつかさどり、最善へと導いてくださることをより感じる年となりました。

様々な出来事がありましたが、小さな群れに大きな



励ましが与えられたことの一つに、波多さんが瀬戸田の施設に移られてから外出許可をもらって、ほとんど毎週礼拝に来られ、交わりを持つことができたようになったことです。その信仰に、存在の大きさに皆が力を受けていることを、神さまに感謝しています。

原集会所

週一回の訪問を継続し、生口島南地域に住んでいる方々と、毎月第4金曜日に礼拝をささげることが出来ました。今年の恵みとしては、私が不在の時に、ちょうど田島慶康総主事代行が内海部会を訪問され、瀬戸田と博愛幼稚園にも来てくださいました。その日の午後の原集会所は中止にしていたのですが、三國園長が動いてくださり、お父様やご友人達を招いて、普段より多くの方々が原集会所に集まって、礼拝と交わりをすることができたことは、大きな実りと感謝しています。



中島集会所

毎月第2週は昼礼拝、第4週は夕礼拝と月2回の礼拝を捧げてきています。うれしいことは、昼礼拝で行く時に始めた子ども礼拝に、熱心に通っている小学3年生の亮くんがお父さんを誘ってくるようになったことです。瀬戸田の子ども礼拝も、1人の熱心な礼拝者から始まりましたので、月1回でも、大切に続けて

いきたいと願っています。しかし、9月、11月と私自身の問題で、中島の定期的な礼拝はできませんでした。安下庄と瀬戸田がリモート礼拝でつながれているように、何か良い方法が見つかって、牧師が行かない時でもみなさんが礼拝出来る方法をさがっていきたいです。

大きな喜びは、2024年の最後に、クリスマス夕礼拝を中島のみなさんと捧げられたことです。昨年瀬戸



田に来てくださった音楽家ご夫妻の奏楽ということもあり、普段礼拝に来たことがない、その友人ご家族や、子どもクリスマス祝会でサンタに扮して下さっているマー君（愛称）も来てくれて、楽しくあたたかいひとときとなりました。主に感謝。ハレルヤ。
(石塚多美子)



安下庄集会

通常時は3名で礼拝を守っていますが、クリスマスやイースター、夏休みなど特別なときには、毎週礼拝を守ることができない方々が出席くださり共に礼拝を守ることができるようになりました。また、石塚先生が中島集会所で礼拝を守

られる際には、瀬戸田とリモート（FaceTime）で結び合同で礼拝を守ることができるようになり、いつもとは違った恵みを分かち合うことができることを感謝いたします。

安下庄では過疎化が進み、毎週水曜日に開かれていた近くの教会の礼拝は月に2回となっています。時折、出席される方の中には、車で30分以上かけてお見えになるので、安下庄だけではなく周防大島全体を見据えて、礼拝の在り方を考えなければならないかもしれません。

これからの安下庄、周防大島での働きのために、お祈りに覚えていただければ幸いです。

(中川純良)

【広島平和キリスト教会】

私達の教会は、今年、教会設立20周年を迎えることができました。記念礼拝には山下教会の藤井先生に来ていただき、記念礼拝を行うことができました。

先生は「気を取り直して羽ばたこう」という題でメッセージを下さいました。この20年を振り返り、私達のこの地での神の子としての役割はどうであったか、又、個人としての信仰の歩みはどうであったかを思いながら、メッセージを聞いたものです。

私達の教会は、国際色豊かです。日本、ミャンマー、フィリピン、ベトナムの4カ国の人たちと礼拝を持っています。

福山在中のミャンマーの方、ティムさんの職場のミャンマー、ベトナムの方が礼拝に参加されます。そういう中であって、私達は礼拝の中で英語の賛美歌を賛美することになりました。

CSの子供たち、ママたちの役割も少しずつ充実してきました。

暗唱聖句、CSメッセージ、奏楽、献金当番を担当してもらっています。

教会のコンサートも教会員の自宅のとなりの方が教会でコンサートができないだろうかと言って下さり、行なうことができました。

夏には聖書配布協会の方々と礼拝をもつことができ、証しをして下さっています。

この1年、色々なことがありました。すべては神様の導きと祝福と、ご計画の中であって、行われたことと信じています。

国際色豊かな私たちの教会を、広島にいる外国の方たちに知ってもらい、この地での伝道がなされていくために、一人一人ができることは何か？神様に尋ね、求め、祈り、これからも羽ばたいていきたいと思っています。

(鵜野早葉子)



内海で生まれた讃美

今回紹介する「内海で生まれた讃美」は、綿谷剛兄作詞・作曲の讃美2曲です。

「みことばを宣べ伝えなさい」は、2024年度の内海部会の主題聖句。「一つの部分が」は、2024年度の同盟の主題聖句で、教会音楽委員会の募集に応募した讃美です。ぜひ、一緒に讃美していただけたらと願っています。

(綿谷 剛)

「内海で生まれた讃美集I」をご入用の方は向島キリスト教会にご連絡下さい。

伴奏譜や参考音源は下のウェブページへ。

<http://www.333.ecnet.jp/naikai/praisebook/index.html>



JB掲載のYoutube動画は、"Watasan's Praise Channel"へ。

<https://www.youtube.com/channel/UCGuH9sh16urEvZ4XAxz0PHg>



みことばを宣べ伝えなさい

(Ⅱ テモテ4 : 2 / 新改訳2017)

作曲：綿谷 剛

♩ = 146

みことばをのべたえなさい
 ときが良くてもわるくても
 しっかりやりなさい
 にんたいのかぎりをつくし
 たえずおしえながら責
 めいましめまたすすめなさい
 みことばをのべたえなさい
 ときが良くてもわるくても
 も

C 2024.4.1 Tsuyoshi Watatani

一つの部分が

(1コリント 12 : 26)

作曲：綿谷 剛

♩ = 120

ひとつのぶぶんがくるしめば
 すべてのぶぶんがとも
 にくるしみひとつの
 ぶぶんがとうとばれれば
 すべてのぶぶんがとも
 によろこぶのです

c 2024/09/16 Tsuyoshi Watatani

【編集後記】

今回は、JBと同様に横書き・左綴じの体裁としました。新聞用編集ソフトから汎用ソフトであるWordでの編集に変更しましたが、図が勝手に移動してしまったり、なかなか難しく、要検討です。

また、昨年度までページ数が増え続けていましたので、原稿の文字数を制限させていただいたので、原稿を書いて下さった方は執筆が難しかったと思います。苦勞して書いて下さった皆さんに感謝します。

今年度は松田師を招いて信徒研修会を行いました。地方での教会の活性化はとても難しいですが、諦めずに取り組んでいかなければならない大切な課題であると思います。

ご愛読いただいている皆さまには、これからも内海部会の様子をお伝えしていきたいと思ひます。ぜひ内海での働きのためにお祈り下さい。

(編集委員 大谷孝志, 石塚多美子, 綿谷剛)

福音丸伝道継続事業献金感謝

2023年度 献金感謝一覧

団体	教会(内海以外)	教会(内海)	個人	個人
厚木幼稚園	西岡本教会	向島教会	松平季子	関田明美
関東学院六浦小学校	曾根教会	土生教会	益巖	南沢満雄
捜真女学校中・高	関東学院教会	小豆島教会	松木美智雄	野村篤子
関東学院小学校	山下教会	広島平和教会	横瀬実	
捜真小学校	日ノ本教会		田頭サヤカ	
	大阪神愛教会		柴田豊子	
	奈良佐保教会		生駒桂子	
	松島教会		水川孝子	
	帯広伝道所		森島恵	
5団体	9教会	4教会	12名	合計：30

内海伝道団会計報告・予算

	項目	2023 予算	2023 決算	2024 予算
収入	1.教会・協力団体	250,000	279,080	250,000
	2.個人	200,000	82,000	200,000
	3.利子収入		12	12
	4.前年度繰越金	1,500,977	1,500,977	1,388,475
	収入計	1,950,977	1,862,069	1,838,487
支出	1.開拓伝道応援費	250,000	250,000	250,000
	2.諸教会応援費	50,000	100,000	100,000
	3.福音丸新報発行費	30,000	63,990	30,000
	4.福音丸新報送料他経費	38,000	33,008	38,000
	5.振替手数料	5,000	3,703	5,000
	6.事務費	10,000	2,893	5,000
	7.活動費	50,000	0	50,000
	8.ミモザ会費	20,000	20,000	20,000
	9.讚美集発行費	0	0	0
	10.予備費	1,374,268	0	1,340,487
		支出計	1,827,268	473,594
	11.次年度繰越金	123,709	1,388,475	0
	合計	1,950,977	1,862,069	1,838,487

開拓応援伝道費は各教会の開拓伝道費の補助
 諸教会応援費は2023より中島集会所と安下庄集会所の補助

感謝とお願い

瀬戸内海伝道団による福音丸伝道継続事業の為のお祈りと貴重な献金を感謝申し上げます。

内海部会も年々縮小化する傾向にありますが、皆様のお祈りとお支えにより、2023年度も伝道団として各教会に50,000円を助成金として送ることができました。

皆様の心からなるお祈りと献金により、内海部会諸教会が御業の一助としての活動ができますことを心より感謝申し上げます。

振込用紙を同封致します。今年もご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

瀬戸内海伝道団代表 大谷孝志
 ☆献金の送付は、同封の郵便為替用紙または、「瀬戸内海伝道団」口座番号01340-3-11913にお願い致します。

県	教会名	郵便番号	住所	電話	牧師・伝道師
香川	小豆島バプテスト教会	761-4121	小豆郡土庄町淵崎甲 2071-22	0879-62-2053	井上 正之(代)
広島	向島キリスト教会	722-0073	尾道市向島町 16058-22	0848-44-2762	大谷 孝志
広島	土生バプテスト教会	722-2323	尾道市因島土生町 1602-1	0845-22-0593	林原 弘
広島	土生バプテスト教会 重井集会所	722-2102	尾道市因島重井町 3055	0845-25-0134	(兼)林原 弘
広島	瀬戸田バプテスト教会	722-2411	尾道市瀬戸田町瀬戸田 378-1	0845-27-0173	石塚 多美子
愛媛	瀬戸田バプテスト教会 中島集会所	791-4501	松山市中島大浦 2107-10		(兼)石塚 多美子
山口	瀬戸田バプテスト教会 安下庄集会所				中川 純良
広島	広島平和キリスト教会	731-0101	広島市安佐南区八木 3-5-17-10	082-872-1150	トウ・カン・クヅ